

短期予報解説資料 2026年10月25日03時40分発表

気象庁

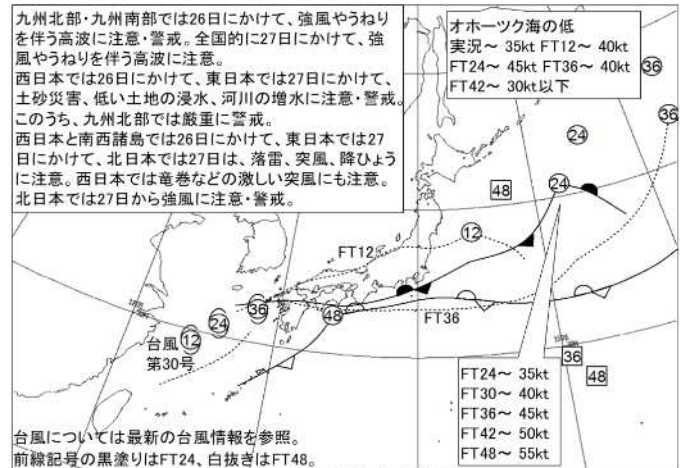
1. 実況上の着目点

① 台風第30号は北緯35度以北を北上中の亜熱帯ジェットとの結びつきが強まる様子はなく、上層の太平洋高気圧の縁に沿って、大きく加速することなく北上。27℃以下の海面水温の海域に入るなど発達要因なく衰弱中。

② 日本海西部～朝鮮半島の500hPa5760～5820mのトラフの東側に北に盛り上がった組織的な雲域があり、西～東日本の前線が北上。対馬近海や日本海の前線の雲バンドでは激しい雨を解析。

③ オホーツク海の低気圧が東進。気圧の谷が日本海北部に連なっている。北海道地方では南西の風が強まっている所がある。気圧の谷の西側では寒気移流が卓越。中国東北区の高気圧が日本海や黄海に張り出し、下層寒気を南下させている。

④ 太平洋高気圧の周囲を時計回りに北上する厚い下層暖湿気域があり、衛星では対流活発。南大東島高層観測では850hPa相当温位351Kに上昇、可降水量53ミリに増大。



主要じょう乱解説図

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 台風第30号は、1項①のとおり衰弱しながら北東進し、26日午前中に九州に接近。夜には前線上の温帯低気圧となるが、温帯低気圧としての発達要因も乏しく27日には不明瞭化する。27日には中国東北区から黄海で強い寒気を伴うトラフが深まり、大陸から日本付近は広い範囲で寒気移流が強まって、大陸の高気圧が日本付近に張り出してくる。また、500hPa5760m付近の関東沖の前線上に別の低気圧が発生して、発達しながら北東進。28日にかけて西高東低の気圧配置となる。

② 1項③の下層寒気の南下に伴い、25日朝以降は前線が南下、26日には九州北部～西日本太平洋側～伊豆諸島に停滞する。前線の南側には、台風の接近に伴い、台風周辺やその東側では1項④の下層暖湿気の流入が強まり、大気の状態が非常に不安定となって、前線付近やその南側を中心に激しい雨や非常に激しい雨が降り、大雨となる所がある。西日本では26日にかけて、東日本では27日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水に注意・警戒。このうち、九州北部では厳重に警戒。また、西日本と南西諸島では26日にかけて、東日本では27日にかけて、強い寒気の影響が始まる北日本では27日は、落雷、突風、降ひょうに注意。西日本では竜巻などの激しい突風にも注意。

③ 台風第30号は大型で、25日は非常に強い風、26日も強い風を広い範囲でもたらし、これまでの台風を波源とするうねりの影響も続く。また、1項③や2項①の要因により強い風の吹く所がある。全国的に27日にかけて、強風やうねりを伴う高波に注意。台風が接近する九州では、東シナ海側を中心に、接近時の台風の強度に応じて、暴風や警報級の高波となる所がある。九州北部や九州南部では26日にかけて、強風や高波に注意・警戒。九州北部の26日は警戒。西日本では26日は、高潮に注意・警戒。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量的予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項【量的予報等】①雨量(06時から24時間)：九州北部200、四国150、中国120、九州南部・近畿100mm。②波浪(明日まで)：沖縄・九州南部・九州北部5、奄美・四国・近畿4、その他広い範囲で3m。5. 全般気象解説情報発表の有無 「台風第30号」を05時頃予定。